

平成30年度 邑南町教育委員会点検・評価報告書



令和元年9月
邑南町教育委員会

目 次

はじめに	・・・	1
1 教育委員会の開催実績	・・・	1
2 教育委員の諸活動	・・・	5
3 教育委員の研修等	・・・	5
4 教育委員会だより	・・・	6
5 教育委員会所見	・・・	6
6 第三者評価機関委員からの意見骨子	・・・	11
7 平成30年度邑南町教育委員会点検・評価表	・・・	15

(P1～P28)

資料 教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

平成30年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たすために、邑南町教育施策の実施計画をもとに、自己点検及び評価を行い、第三者評価委員の意見をふまえて議会へ報告します。

1 教育委員会の開催実績

定例（毎月開催）の教育委員会…12回

臨時の教育委員会…7回

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月12日	1. 邑南町グラウンド等施設条例施行規則の一部改正 2. 邑南町体育館条例施行規則の一部改正 3. 邑南町羽須美運動広場条例施行規則の一部改正 4. 邑南町学校事務共同実施連絡協議会設置要綱の一部改正 5. 邑南町郷土館活動推進協議会委員の委嘱 6. 久喜・大林銀山遺跡調査指導委員会委員の委嘱 7. 指定学校変更
5月16日	1. 邑南町立小中学校主任等発令意見具申 2. 邑南町教育支援委員会委員の委嘱 3. 邑南町結核対策委員会委員の委嘱 4. 邑南町社会教育委員の委嘱 5. 工事請負契約の締結 6. 財産の取得

5月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人事権をめぐる問題 2. 邑南町結核対策委員会委員の変更
6月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育支援委員会への諮問 2. 邑南町教育施策実施計画 3. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 4. 邑南町地域指導者活用事業実施要領の制定 5. 町指定史跡「久喜製錬所遺跡群」の現状変更 6. 町指定天然記念物「賀茂神社の社叢」の現状変更
7月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館あり方検討委員会
7月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書採択(中学校道徳、小学校全教科) 2. 邑南町教育委員会の点検評価及び公表に係る第3者評価機関委員の委嘱 3. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価 4. 邑南町教育施策実施計画 5. 石見中学校校舎改築調査検討委員会 6. 邑南町教育支援委員会の答申 7. 公民館のあり方 8. 町指定史跡「久喜製錬所遺跡群」現状変更
8月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 2. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価 3. 邑南町教育支援委員会の答申 4. 学校給食審議会への諮問 5. 邑南町公民館のあり方 6. 邑南町食育推進会議設置要綱 7. 邑南町立小中学校空調設備設置計画(案)
8月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 邑南町立学校 学校歯科医の委嘱 2. 邑南町食育推進会議設置要綱

9月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 2. 学校給食審議会への諮問 3. 指定学校変更
10月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 邑南町教育支援委員会への諮問 2. 邑南町学校給食審議会委員の委嘱 3. 指定学校変更
11月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 邑南町における学校給食費の値上げ
11月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 邑南町学校給食費条例の一部改正 2. 邑南町学校給食費条例施行規則の一部改正 3. 邑南町教育支援委員会の答申 4. 指定学校の変更 5. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 6. 邑南町振興計画審議会の委員の任命
11月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 邑南町立小中学校空調設備整備事業の工事請負契約の締結
12月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定学校の変更 2. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 3. 邑南町教育支援委員会への諮問 4. 邑南町立小・中学校の教職員の服務規則の一部改正 5. 区域外就学 6. 久喜銀山遺跡 7. 人事案件
1月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 邑南町立学校施設設備の開放に関する条例の一部改正 2. 邑南町教育支援委員会の答申 3. 指定学校変更 4. 宗門開帳の調査依頼
2月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助新入学児童生徒学用品費の支給認定

	<ul style="list-style-type: none"> 2. 邑南町いじめ防止基本方針一部改訂 3. 邑南町教職員住宅管理条例の一部改正 4. 教職員の人事 5. 邑南町学校施設長寿命化計画の策定 6. 消費税等の改正に伴う関係条例の整備に関する条例 7. 邑南町立体育館条例の一部改正
2月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 石見中学校校舎改築検討委員会設置要綱
2月23日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 邑南町職員定数条例の一部改正
3月25日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 2. 邑南町スポーツ推進委員 3. 邑南町公民館長 4. 邑南町公民館運営審議会委員 5. 邑南町郷土館長 6. 邑南町文化財保護審議会委員 7. 公民館職員配置 8. 邑南町特別支援体制推進事業実施要綱の一部改正 9. 邑南町表彰審議会委員の任期満了に伴う推薦 10. 邑南町中学校部活動ガイドライン 11. 邑南町スクールバス条例施行規則の一部改正

2 教育委員の諸活動

- ① 学校行事への出席（入学式、卒業式など）
- ② 町、教育委員会行事への出席（成人式など）
- ③ その他の活動（学校訪問、総合教育会議など）

*詳しくは以下のとおり

開催日	内 容
4月 3日	教職員着任式
4月10日	小中学校入学式
5月29日 ～2日間	学校訪問（5/29 高原小、瑞穂小、瑞穂中、阿須那小、羽須 美中、口羽小） （5/30 石見東小、日貫小、市木小、矢上小、石見 中）
12月26日	島根県教育長陳情（島根県教育庁）
1月 3日	成人式
1月19日	邑南町教育意見交換会（日貫小学校）
1月22日	総合教育会議 テーマ「これからの邑南町を担う人材育成のあり方 ～生き方や価値観をどのように変えるか～」
3月10日	中学校卒業式
3月19日	小学校卒業式
3月25日	教職員退任式

3 教育委員の研修等

開催日	研 修 内 容
7月13日	島根県 市町村教育委員会連合会研修（松江市）
8月26日	北房小学校・北房こども園施設見学会視察（岡山県真庭市）
11月 2日	町教育研究会
2月18日 ～19日	教育魅力化先進地視察研修（高知県越知町）

4 教育委員会だより

平成30年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年3回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議等の活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事等の紹介をしました。

5 教育委員会所見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政の責任体制が明確化された、新たな教育委員会制度が、平成27年4月1日から施行され、邑南町教育委員会では平成28年から新制度に移行しています。

毎年度「教育施策の実施計画」を定め、具体的な事業内容については教育委員会だより「邑南の教育」を通じて、町民の皆様方へお知らせしてきました。

教育委員は、学校訪問により各校の抱える課題の把握に努めることはもちろん、教育行政の推進のために「教育の魅力化」の先進地視察や学校施設見学会への参加、総務教民常任委員会との意見交換会、「これからの邑南町を担う人材育成のあり方」をテーマにした総合教育会議などを実施しました。

以下、30年度の主な事業です。

(1) 島根県委託事業「平成30年度教育魅力化推進事業」の取り組み

島根県では、生徒数が減少する離島・中山間地域の高校の魅力化を支援するための事業を23年度からスタートさせました。矢上高校は24年度からこの事業を受けた取り組みを始めました。町教育委員会もこの高校の魅力化に歩調を合わせ、中高連絡会の設置、中3夏の学習会、おおなんドリーム学びのつどいなどの事業を高校とともに開催してきました。

島根県は、29年度から、魅力化を進める高校と一体となりふるさと学習やキャリア教育に取り組む市町村にも財政的な支援をする事業をスタートさせました。

邑南町教育委員会は、これまでの経緯を受け、また「邑南づくり教育計画」の具

現化を一層推進するために県の事業を受託し、取り組みを進めました。

この事業に先立ち、邑南町は、矢上高校・石見養護学校・邑南町・邑南町教育委員会による四者協定を締結しています。

平成30年度の主な事業

- 推進するチームの結成・研修
- 中高合同キャリア学習会
- 中高教員合同研修会
- 生き方探求キャラバン

(2) 平成30年度学校施設環境改善交付金事業の実施

－石見東小学校大規模改造(老朽)第2期工事－

平成29年度に引続き石見東小学校の校舎改修事業の第2期事業の交付が決定しました。

第2期は教室管理棟の1期分の残り普通教室と理科室等の特別教室、職員室・校長室・保健室・廊下・階段・昇降口等の床・壁・天井・照明のLED化等を平成30年6月5日から平成31年2月15日にかけて実施しました。

(3) 発達障害に関する教職員の理解啓発・専門性向上事業の実施

(通級による指導担当教員等専門性充実事業)

平成29・30年度の2年間実施する文科省事業を島根県が委託を受けて、邑南町に再委託された事業です。

通級指導教室の担当教員に対する研究体制を構築するとともに必要な指導方法について医療・福祉関係機関と連携して、通級指導教室設置校を拠点として研究を進めています。

平成30年度の実績

- 発達障害に関する講演会
- 町内小中学校ミニ研修会の開催
- 冊子「邑南町の通級指導教室～通級の開始から終了まで～」の作成・配付

(4) 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業の実施

平成28～30年度の3年間実施する文科省事業を邑南町が委託を受けた事業です。日貫小学校をモデル校とし、小規模化する学校教育において、つながりの強い地域を積極的に学びのフィールドとし、小規模校のメリットを最大限に生かしながらデメリットを最小限に抑えるための研究を進めました。

平成30年度の実績

- 地域をフィールドにした体験活動の実施（14回実施）
- 異学年異集団活動の実施（15回実施）
- 合同学習や交流活動の実施（12回実施）

(5) 学校給食費の見直し

平成16年の町村合併以来、14年間学校給食費を据え置いて学校給食を提供していましたが、近年は食材費の高騰などにより町からの食材費への補助が増えている状況にありました。このため、平成31年度以降の給食費の見直しについて検討し、給食会理事会、給食審議会、教育委員会、議会で協議を重ねた結果、平成31年4月から給食費を見直すことを決定しました。

【改正内容】

- (1食あたり) 小学校 見直し前240円→見直し後265円
- 中学校 見直し前270円→見直し後300円

(6) 公民館のあり方の検討

平成18年の「邑南町行財政改革大綱」及び「邑南町まちづくり基本条例」より、邑南町の活力と持続可能性を高めるには自助と共助、そして町民と町の協働が不可欠であると認識しています。

これら実現のため、今後公民館としてどのような役目を果たしていくのかを明確にすることが必要と考え検討を進めました。

結果、今後の公民館のあり方として、公民館の人的体制は現状を確保し、さらに

協働に向けた取り組みを強化することで邑南町の持続可能性を高めるべきであるとの結論に至り、公民館を「地域住民と行政の協働づくりの場」として位置づけ、その役割を確実に達成できるようその方向性を示しました。

(7) 2020 東京パラリンピック事前合宿招致・フィンランド共和国交流派遣事業の実施

邑南町は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会にフィンランドのゴールボールチームの事前キャンプ誘致について、10月14日に事前キャンプの覚書を締結しました。

このことで、今以上にフィンランド共和国との交流を深めるため、引き続きフィンランド共和国へ子どもたちを派遣する事業を実施しました。

この事業は、町内の中学校、矢上高校、石見養護学校の生徒が現地の人々と交流し、豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任感を身につけ、ふるさととグローバル社会に貢献できる人材の育成を図ることを目的としています。

今回2回目となる30年度は8名の参加があり、12月19日から27日の間実施しました。

(8) 親学ファシリテーター養成講座の推進

親としての役割や子どもとの関わり方の気づきを促すため、また、地域社会においてのコミュニケーション力向上のための学習プログラム実施に向けた支援者を養成するため、親学ファシリテーター養成講座を年間通して取り組みました。

親学プログラムを学んだり、実際にアイスブレイクやワークショップを体験したりするなど、ファシリテーターに必要な手法を学んでいただきました。今後受講していただいた皆さん方の協力により家庭教育支援の輪が広がることを期待しています。

○30年度親学ファシリテーター資格取得者数 9名

(9) 久喜銀山遺跡の国史跡に向けた準備

平成22年度から実施してきた久喜銀山遺跡調査について、それぞれ成果をまとめ29年度末に報告書を発刊しました。それら成果を元に、調査成果のさらなる価値付け等、文化庁の調査官に現地指導をいただき、本遺跡の価値を再確認しこのことを具体的に示してきました。

(10) 旧山崎家住宅改修事業実施

雨漏りなど茅葺屋根の老朽化により、旧山崎家住宅の改修工事を平成29年度より2カ年をかけ、家屋の耐震化工事、茅葺屋根の修復工事を実施しました。

(11) ユニバーサルデザインの推進

誰もが使いやすい公共施設を目指し、元気館においてトイレドアの改修、点字ブロックの延長及び音声案内の設置を実施しました。

6 第三者評価機関委員からの意見骨子

1. 生きる力を育む教育の推進（学校教育）

施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

1) 点検・評価P2事務事業名③確かな学力を育むについて

・現在、外国語指導助手（ALT）は1人だが、小学校外国語の教科化への対応をALT1人だけに頼っているのであれば、評価点数が高いのではないか。国にはALTを派遣する制度があると聞いているが、中山間地域にはなかなか来てもらえない。都会との格差が生じ、学力の差が開いていく恐れがある。

・地域では子どもたちは様々な活動を通して地域の方々と関わっているが、子どもたちが地域の方とどのように触れ合い、関わっているか地域での活動の様子を学校の先生に見てもらいたい。また、学校の先生に少しでもいいので地域行事などへ参加し、地域のことを知ってほしい。

・ふるさと学習などで学校と地域が関わることもあるが、学校と地域がどのように関わっているのか担当以外の教師は知らないのではないか。教師と地域の人が関わる場、つながる場があれば良い。

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

2) 点検・評価P9事務事業名②児童生徒の健康安全対策について

・青パトの活動メンバーが固定化され、人数の減少により毎日従事されるなど負担が大きい方もおられる。効果的な募集方法により青パト隊員の増員をお願いしたい。

・児童が青パト隊へ感謝の気持ちを表したポスターを作るなど、青パト活動のやる気につながるような取り組みを行ってはどうか。石見東小学校では、年度末に青パト隊の方々にお礼の手紙を渡すなど、青パト隊の方へ感謝の気持ちが伝えられている。

・ケーブルテレビで青パト活動を取材してもらい、町民へ活動の内容を伝え、隊員の増員につなげられないか。青パト活動のやる気につながる方法を考えてほしい。

- ・青パト活動はボランティアのため無償で活動されている。隊員の増員を図るためにも、少しでも謝礼やガソリン代など支給できないか。
- ・これまでもたびたび声かけ事案が発生している。防犯カメラの設置を検討してほしい。

2. 地域を担う人材の育成（社会教育）

施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

1) 点検・評価P11事務事業名①地域学校について

- ・今まで郷土の伝統芸能保存団体の事務局を教頭先生に務めてもらっていたが、働き方改革の方針に従い今年度よりできないと話があった。本来、地域・学校・保護者が連携して関わっていくべきではないか。
- ・地域学校に携わっているが、段々と活動内容のアイデアが乏しくなっており、しんどさを感じている。他地区の活動を知り今後に生かすためにも地域学校交流会を開催し情報交換する機会を設けてほしい。また、他の地域学校へも参加できるようになれば良い。他の地域学校へ参加することで自分たちの住む地域資源の良さを再発見できる機会となるのではないか。
- ・学校に地元出身の先生に赴任してもらおうよう配慮してほしい。地域の事を知っている先生の方が円滑に地域と学校の関わりを持つことができる。

施策2 2020東京パラリンピック合宿招致

2) 点検・評価P15事務事業名①東京パラリンピック合宿招致について

- ・本日、島根県立盲学校の見学・体験ツアーに参加し、見えにくさのある方のサポートなどについて学んだ。目の不自由な方の声を聞き、大変良い体験だったが、参加者が少なかった。障がい・障がい者理解教育を進めるためにも多くの方に参加してもらいたい。

施策4 図書館教育の充実

3) 点検・評価P20事務事業名①図書館の整備・充実について

・郷土資料となる貴重な本があるが、記載内容がわからないなど有効な活用がされていない。計画的に資料整理を進めてもらいたい。

施策5 社会体育の充実

4) 点検・評価P21 事務事業名①生涯スポーツ活動について

・子どもがスポーツ活動で全国大会に出場するなど活躍することが多いが、大会結果は広報誌などでの周知に終わっている。大会の様子を町民に映像で伝えられるよう、ケーブルテレビで機材を借りて保護者が撮影したものを放映することができないだろうか。

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

1) 点検・評価P26 事務事業名①関係施設の整備・充実と有効活用について

・文化財の案内看板が老朽化により読むことさえ困難なものが多くあるが、修繕が進んでいない。地元の者として恥ずかしい思いをしている。予算確保に努めてほしい。

2) 点検・評価P27 事務事業名③芸術・文化に関する学習支援について

・「邑南の自然・景観写真展」は実施されているものの評価が7点と低いため、点数を上げる努力をしてほしい。

・これらの写真をカレンダーにして販売し、郷土の良さをPRしてはどうか。また、「さくらほろほろ」の歌の映像の背景に活用しても良いのではないか。

令和元年 8月 6日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員	日高	豊美
委員	寺本	英仁
委員	杉本	千代美
委員	鳥居	清枝
委員	中村	昌史
委員	長谷川	淳
委員	日高	亘
委員	今岡	ひろみ
委員	和田	康司
委員	板屋	浩明

7 平成30年度邑南町教育委員会点検・評価表

別添のとおり

平成30年度邑南町教育委員会点検・評価表

【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向性を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

1. 生きる力を育む教育の推進（学校教育） 施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

～つながり合い、学び合い、高めあう教室・学校づくり～

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>教育委員会や学校において多くの研修機会を設けるとともに、教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会でも継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取り組みに努めている。 今後も継続し、より一層推進していく必要がある。</p>		10	継続
課題			
<p>転入教職員人権・同和教育研修は、特別の事情がない限り転入してきたすべての教職員が参加している。小中学校職員研修会は、これまで実施してきた講演会に替え、子どもたち同士の多様性を認め合う内容のセミナーを実施した。2日間のワークショップ形式での研修ということもあり、これまでの講演会に比べ参加者数は少なかった。今後も改善しながら開催し、できるだけ町内すべての教職員が参加できるようにしたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○人権・同和教育研修会 町教育委員会で教職員対象の研修会を実施した。また、各学校でも年間計画を立てて研修を実施した。 ・邑南町教育研究会 人権・同和教育部会5回 延べ234名 ・邑南町教職員対象研修会 2回 延べ50名 (転入教職員同和教育研修会27名参加・小中学校職員研修会(多様性教育セミナー)23名参加)</p>			10

事務事業名	②実践的な学習の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。昨年度同様、学び合い授業づくりのモデル校、英語指導力向上セミナーの町教育研究会英語部会が主体的に取り組んでいた。また、研究発表校が自校の研究に役立てながら、児童・生徒の学習意欲や学力調査結果の向上につながった学校もあった。</p> <p>また、小規模校の小学校では学習ガイドを作成し、児童が主体的に学習を進めていく様子も見られた。</p>		8	改善し 継続
課 題			
<p>教師力向上のための研修会は、7年間継続して開催している。前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布したり、邑南町教育研究会との連携を深めたりするなど、本研修の意義を事業説明会等や学校訪問等で管理職に伝達し、より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い授業づくり モデル校3校(日貫小、高原小、羽須美中)は3回開催。 モデル校以外の学校は各1回開催 ・学び合い授業づくり夏季研修会 1回開催(7名参加) ・説明文の授業づくりセミナー1回開催(8名参加) ・調べ学習セミナー 1回開催(13名参加) ・英語指導力向上セミナー3回開催(計25名参加) ・おおなん郷土塾 1回開催(20名参加) ・小学校外国語セミナー3回開催(30名参加) ・説明文の授業づくりガイドブック作成(100冊作成) 		8	

事務事業名	③確かな学力を育む		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業では、島根大学教育学部御園准教授と受託契約を結び、問題の内容やスタッフの指導のあり方を含めて研究・分析をしていただいた。参加した子どもは楽しく学ぶことができた。花まるさんすう教室の教室1回あたりの参加者は0.5人程度増加した。年度末のアンケートは、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった。」と回答していた。調べ学習相談会に参加した子どもは、邑南町調べる学習作品展にまとめた視点を意識した作品を出品していた。辞書引き学習会では、意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が多く見られ、その後各学校で継続して辞書引きに取り組む子どもが多数見られた。全体として、学習意欲の向上は達成することができたと考えられる。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査の町全体の小学校6年生の平均正答率は、平成29年度に比べ全教科で減少した。また、平成30年度の全国平均・島根県平均と比べても全ての教科で下回った。中学校3年生の平均正答率は、平成19年度から年によって波があるが、平成30年度は国語A・国語B・理科は全国平均を上回り、数学A・Bは下回る結果となった。</p> <p>学校毎の分析については各学校で分析をおこなっており、個に応じた指導に役立っている。</p> <p>定期的に学校司書の連絡会を開催した。これにより、各学校での取り組みについて情報共有する事ができ、業務効率の改善につながった。また、県立図書館主催の研修会に参加する事で、新しい考え方を取り入れることができた。</p> <p>子ども笑顔キラキラサポート事業では、学校からの配置要望人数に対してほぼ対応できた。今後も継続して適切かつ効果的な配置ができるようあり方検討会を開催し、支援員の役割等について協議をした。</p> <p>外国語指導助手(ALT)招致について、小学校外国語の教科化により学校現場からはALT派遣をより一層求められている。教科化に向けて2名の配置を確保する必要がある。</p>		8.6	改善し 継続

課 題	
<p>基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業は、希望者参加型の学習会であり、参加者は増えているものの学習に支援が必要な子どもが必ずしも参加できているわけではない。また、参加者数が増えた分ボランティアが不足している。防災無線を使った呼びかけや、公民館にポスター掲示をするなどしながら、学校や家庭とも、より連携していく必要がある。</p> <p>学力調査では、各学校で調査結果・分析を踏まえた取組みがされている。教育委員会として、これまでも行って来たように訪問指導等を利用して各学校の効果的な取組みを町全体へ説明する。</p> <p>図書廃棄についての考え方を教育委員会から示し、各学校との共通認識はできているが、邑南町としての廃棄基準の作成が求められる。</p> <p>子ども笑顔キラキラサポート事業では、支援を必要とする児童生徒への支援の方法について、すこやか相談会を活用した相談支援チームによる学校訪問を行い、各学校と支援のあり方について共通認識を図り、支援のスキルアップにつなげていく必要がある。</p> <p>外国語指導助手（ALT）招致について、小学校外国語の教科化により学校現場からはALT派遣をより一層求められる。教科化に向けて2名の配置を確保する必要がある。</p> <p>予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存しているところが多い。</p>	
主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○基礎学力の向上・定着 基礎学力向上・定着を図るために、算数・数学や英語、家庭学習に重点を置いた事業を実施 ・花まるさんすう教室 3地域で7回ずつ実施。島根大学と連携して問題作成。 ・調べ学習相談会 小学1年～中学3年生対象 各3地域1回ずつ計画し、2地域で開催 ・調べる学習作品展 年2回開催 ・漢字カルタ大会 小学1年～4年生対象 年1回 ・辞書引き学習会 小学1・2年生対象 町内すべての小学校が参加</p>	9
<p>○学校図書館活用の推進 ・定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについて情報共有を行った。 ・学校司書の配置(平成21年度から全11校に1名ずつ学校司書を配置) ・県の「子ども読書活動推進事業」を活用し、学校司書の人件費の確保の一助とした。 ・研修会で学んだ手法を取り入れることができた。 ・授業において、子供達が自ら調べ、プレゼンテーションする事で、自学習慣が身につけてきている。 ・学校図書館等を活用した調べる学習作品展の実施 前期102点、後期268点の出品があった。</p>	9
<p>○笑顔キラキラサポート事業 ・低学年複式学級支援員3人(口羽小学校・市木小学校・日貫小学校)を配置した。 ・生活支援員を小学校3校に5人配置した。 ・学習支援員を小学校8校に8人、中学校2校に2人配置した。</p>	9
<p>○学力調査 ・全国及び島根県学力調査を実施し、その調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。訪問指導等で各学校に聞き取りを行った結果、学校の実態、分析を踏まえて取組みが行われている。 ・全国学力・学習状況調査(対象:小学6年生、教科:国語・算数・理科/対象:中学3年生、教科:国語・数学・理科) ・島根県学力調査(対象:5年生・6年生、教科:国語・算数/対象:中学校1・2年、教科:国語・数学・英語) ・全国学力・学習状況調査、島根県学力調査については邑南町の傾向を分析した。</p>	9

<p>○外国語指導助手招致(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化への関心を高め、英語と親しむことを目的に配置した。 ・小学校 1名(1年目) 8校/月1回授業 ・前ALT任期満了後の後任は補充せず、1名体制継続となった。訪問時には教職員・児童とゲームを交えながらコミュニケーションを図るなどして英語に親しむことができた。しかし、1名体制では訪問回数が限られネイティブな英語に触れる機会が確保できない。 	7
<p>○外国語指導助手招致(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な英会話能力の向上を図るために配置した。 ・中学校 1名(1年目) 3校/週1~2回授業 生徒の意欲的な授業の取り組みにつながった。 	9
<p>○教育設備の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施(中学校においては、技術の授業での「情報の技術」での実習、その他理科・数学・英語などでの教材の提示を行っている。小学校においては、社会・理科・総合学習などでの調べ学習に活用している。) ・H30年度の計画どおり、各学校の普通教室にプロジェクター、スクリーン、書画カメラの3点セットを整備した。これにより各校普通教室への整備が完了した。(事業期間:H28年度~H30年度) 	8

事務事業名	④特別支援教育体制の構築		
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等	
<p>特別支援相談ネットワークは学校や保育所・園に浸透し保護者からの相談件数は伸びなかったが、学校(特に小学校)が発達検査の事前訪問や通級利用の相談で利用され、相談件数が増えた。支援の必要な子どもを対象に相談支援ファイルすこやかを配付しているが、保護者の同意を得て、校内または就学先へ情報提供するようお願いをしている。今年度は保育所児童保育要録の見直しにあわせ、ファイルの所持の有無についての記入欄を加え、小学校へ情報提供できるようにした。</p> <p>通級指導教室では、各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。</p> <p>教育支援センター(たけのこ学級)の活動では、定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー(SSW)や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応ができた。また、必要に応じて学校と情報共有の場を設けることができた。</p> <p>いじめ対応支援事業のQUアンケートでは、各学校で学級づくり、人間関係づくりに活用されている。</p> <p>「おおなん子どもの集い」では、小規模校の子どもたちにとって多くの子どもと交流する機会となり、特に意義のある活動となった。また、小学生が中学生と直接ふれあう場となり、進学に向けての不安解消といじめについて自分事として考えることにつながっている。</p> <p>教育支援委員会では、保育所・園及び学校からの要望に応え、年3回開催し、幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申した。</p>			
課 題	8.8	改善し継続	
<p>相談支援ファイルすこやかの活用について、ここ数年学校全体に周知する機会を設けておらず、定期的に活用方法について共通認識を持つ場が必要である。あわせて小中学校でファイルがどのように活用されているか、特別支援教育コーディネーター会等で各小中学校の現状を把握する必要がある。</p> <p>通級指導教室は、各小中学校と情報交換、連携を深め、継続した支援を実施する。</p> <p>教育支援センターでは、中学校卒業後の支援について困難であるため出身中学校や進学先の高校、地域と連携を図っていく。</p> <p>QUアンケートの結果は、全国・県学力調査とも比較し、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう教育委員会主催でのQUアンケート活用の研修会を実施し、各学校でのQUに対する認識を深め、全校での取組みとなる体制の整備が必要である。</p> <p>「おおなん子どもの集い」では、各学校での生徒会活動や児童会活動においていじめのない学校をめざす取組につながっていくように、今後学校との連携を深める必要がある。</p> <p>SSWによる支援を必要とする児童生徒が増加しており、ケース会議、保護者面談、家庭訪問を必要に応じて行っている。</p> <p>教育支援委員会については学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつなぎ、連携について、より一層の充実が図られるよう周知する。また、学校においては児童生徒数の規模にかかわらず、保護者との連携を図り、町教育支援委員会への迅速な対応を心がけていくよう意思統一が必要と考える。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○特別支援相談ネットワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 邑南町特別支援合同相談会の定期開催を計11回開催した。 相談件数:27件 ・ 特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回訪問を各保育所・園(町内9箇所)を8月中旬に実施した。 ・ 特別支援相談ネットワーク総会を開催。 ・ 特別支援連携協議会を開催し、平成30年度中の活動・連携について協議した。 	9
<p>○教育支援委員会</p> <p>教育支援委員会の審議会を3回開催した(審議対象者13名)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年度審議対象者12名の就学後の検証 ・ 平成30年度審議対象者13名の実態把握(保育所・園、小、中学校訪問) ・ 平成30年度審議対象者13名の就学支援についての保護者面談を個別に実施 	10
<p>○通級指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当職員 瑞穂小:3名 瑞穂中:1名が配置されている。 ・ 平成30年度新規通級利用者:小学校17名(総数37名)、中学校5名(総数10名) <p>「通級による指導担当教員等専門性向上事業」(文部科学省事業) 通級担当教員によるミニ研修会・・・全小中学校で実施 研修会の開催・・・「通常学級でできるアセスメントと指導・支援 ～みんなの特別支援教育と困り感へのアプローチ～」 関西国際大学教育学部教育福祉学科 教授 中尾繁樹氏 冊子「邑南町の通級指導教室～開始から終了まで～」作成し、全小中学校に配付</p>	9
<p>○教育支援センター(たけのご学級)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者:8名(単発の相談含む) ・ 延べ利用人数:330人 ・ 学校巡回:小学校8校、中学校3校を巡回 ・ 相談支援チーム等関係機関と必要に応じて情報交換ができた。 ・ 県立石見養護学校と支援の相談等連携を図った。 	9
<p>○スクールソーシャルワーカーの活用</p> <p>スクールソーシャルワーカーを1名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に各小中学校を巡回訪問 ・ 個別に家庭訪問も実施 ・ ケース会議にも参加し、関係機関と連携を図り、問題解決に取り組んだ。 ・ 平成30年度の支援対象の児童生徒は小学校23名、中学校11名。訪問回数は学校や家庭など含め 130回。 	9
<p>○いじめ対応支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内小中学校で1学期と2学期の2回、アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。 ・ 町内の中学2年生と小学6年生、複式学級の5年生、6年生がいない学校の5年生を対象に「『つながろう仲間！なくそういじめ』 おおなん子どもの集い」と題したワークショップを外部講師を招いて開催した。 	7

事務事業名	⑤就学環境の充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。 就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定どおり実施することができた。なお、今年度より新入学学用品費については入学前支給とし、2月に支給した。</p>		10	改善し 継続
課 題			
<p>スクールバス車両の老朽化により故障が多発し、維持費がかさむとともに安全な運行に支障を来す恐れがある。計画的に順次更新し、利用者の安全輸送を確実にを行うための車両整備が必要である。 就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小学校での健診を案内したため、転居先の校区の小学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し、対応する必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○スクールバス運営 ・児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス10路線（雪田線、宇都井線、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、日貫山の内線）を運行し、学校教育活動の支援に努めた。 ・土日等の学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。 ・老朽化により故障が頻発していた出羽線の車両を更新した。 スクールバス出羽線車両購入 1台 三菱 ローザ 28人乗り 4WD(平成30年11月納入)</p>		10	
<p>○就学援助費の給付 ・要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者:小学生95名 中学生51名 支給額:小学生6,371千円 中学生5,944千円 支給額には、小学校入学前10名 406千円 小学6年(新中学1年)15名 711千円を含む。 ・特別支援就学奨励費の支給 該当者:小学生8名 中学生1名 支給額:小学生225千円 中学生62千円</p>		10	
<p>○通学助成費の給付 ・通学費助成 該当者:小学生14名 中学生4名 支給額:小学生171千円 中学生89千円</p>		10	
<p>○就学時健康診断 ・就学時健診:小学校8校を会場に10月下旬から11月に実施 対象者79名 実施内容:内科・歯科検診、視力検査、面接</p>		10	

施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援

～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名	①地域を担う意識の育成		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>各学校で実施形態、内容等は違うが、それぞれ総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、講話や体験が行われていた。</p> <p>医療講話は、公立邑智病院事務長や邑南町出身の医師・助産師等に各校で依頼し8校の小・中学校で実施した。</p> <p>農林業体験についてはふるさと教育の予算を活用し、生活科や総合的な学習の時間を活用して行われている。</p> <p>また、キャリア教育については、平成29年度より法政大学キャリアデザイン学部児美川孝一郎教授をお招きし、中学校3年生と高校1年生が合同で自分の夢についての学習を行っている。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>校長会や事業説明会等でキャリア学習の実施について依頼や説明をしているが、より浸透を図るため、教頭会でも説明・質疑を行ったり、必要によっては担当者会を開いたりして、子どもたちにつけさせたい力や活動の意義についてすり合わせて実施することが大切と考える。</p> <p>この取り組みにより、地域を担う生徒の意識の育成が一層期待できる。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○キャリア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林業体験 地域の小・中学校においてふるさと教育等の予算を活用し、生活科や総合的な学習の時間等を活用して実施 ・医療講話 5・6年を対象に口羽小、阿須那小、高原小、日貫小が実施、5年生を対象に瑞穂小が実施、6年生を対象に矢上小が実施、2・3年生を対象に羽須美中が実施、3年生を対象に瑞穂中が実施 ・中高合同キャリア学習会 中学3年生と矢上高校1年生を対象に1回実施 			9

事務事業名	②地域との共同学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>おおなンドリーム学びのつどいに向け、事前に発表会を行い保護者、地域の人からももらった意見から、課題を見つけ、さらに深まった活動を行って新たに見いだした課題を発表している学校もある。また、つどいで発表した内容について、地域と学校が関わり続け継続して取り組んでいる学校もある。続けていくことで、各学校の主体性が昨年度以上に生まれてきている学校もあるが、地域課題の具体的な解決方法や、子どもの願いを具体的にどのようにして実現していくのか、目的の共有や学校への支援のあり方について検討が必要である。</p>		10	継続
課題			
<p>おおなンドリーム学びのつどいは休日開催であるため、町内の小中学生が全員参加とはならないのが現状である。今年度は、当日午前中を参観日として参加した学校もあったが、インフルエンザ等により急遽参加ができなくなった学校が2校あった。子どもたちのふるさとへの愛着や地域への貢献意欲をより高めるためには、全員参加が効果的だと考えるが、授業時数の確保の問題もあり現実には難しい状況である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに「ふるさと教育担当者会」を中学校区単位で開き、各校担当者と公民館主事、地域コーディネーター、矢上高校魅力化コーディネーター、学校教育課職員、生涯学習課職員で年度の方針を確認した。 ・各小中学校において、割り当てられた予算の範囲内で地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画し、実施した。 			10
<p>○おおなンドリーム学びのつどい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は1月26日に開催した。参加校は、小学校5校、中学校3校、高校1校、特別支援学校1校であり、実際に実施した地域課題の取り組みや町への提言を発表した。どの学校も地域と関わりをもちながら1年間取り組んだ課題解決学習をもとに、自分たちの取り組みや邑南町への思い、願いを堂々とプレゼンしていた。 			10
<p>○学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小中学校11校で学校関係者評価委員を選任し、各校で年3回以上委員会議や委員参観の日を設定し、学校の自己評価結果を踏まえた評価を実施し、町教育委員会に報告された。結果は、保護者等へ公表した。 			10

事務事業名	③学校の魅力化		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>小規模校のメリットを最大化させながらデメリットを最小化させる事をテーマに日貫小学校において実施された。</p> <p>次期学習指導要領にも盛り込まれるプログラミング学習を先行して実施した。ロボット学習は6月、7月、8月、11月、12月に実施した。また、地域の中での学習を活性化させるために昨年度作成したのぼり旗とそろいのウインドブレーカーを活用し、積極的に地域の方々に関わりながら地域を題材とした学習に取り組んだ。</p> <p>地域を題材にした課題解決型学習に取り組む中で、学校と地域と家庭が協働で子どもを育てる体制ができている。また、地域行事や地域課題についても、子どもたちは自分の事として運営したり解決したりする主体性が見られる。</p> <p>また、保育所、小学校、中学校、高等学校、養護学校との交流を意識し、積極的に他校と交流学习を行った。</p>		10	継続
課 題			
<p>保育所、小学校、中学校、高校、養護学校との交流も行ってきたが、今後も継続してコミュニケーション能力を身につけていく必要がある。</p> <p>公民館とも連携して年間計画を共有し、ふるさととの連携をより深めながら地域と一体となって学習を進めた。今後も、探究型学習を一層充実させ、地域の問題解決に参画しようとする力をさらにつけさせる必要がある。</p> <p>今年度で日貫小学校が受けている文部科学省事業については終了する。異校種異学校交流でのコミュニケーション能力の育成や、公民館等と連携しながらのふるさと教育については学校の魅力化の1つであるため、来年度以降も何らかの形で継続していく。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○教育の魅力化推進事業（日貫小学校対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング学習の実施（6月、7月、8月、11月、12月） ・地域を題材とした学習への取組（教職員がそろいのウインドブレーカーを着用し、子どもと地域の方々が協働で学習を行う。） ・保育所、小学校、中学校、高校、養護学校との交流学习を実施 ・「山といきる」をテーマに、日貫地域の学校・家庭・地域が協働した学びの場である「Take off Hinui」の取組を中心となって実施した。 			10

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	①学校施設の整備		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校施設環境改善交付金事業及び起債事業等を活用し、学校施設の環境改善に努め、石見東小学校の大規模改造工事について、普通教室及びトイレの洋式化を実施した。</p> <p>大阪北部を震源とする堀の倒壊により犠牲者が出たことにより、全国の学校の安全確保が指示され、町ではブロック塀対策「口羽・石見東・矢上小学校」、門柱対策「矢上小学校」、軒裏剥離対策「瑞穂・市木・日貫小学校」を実施した。夏の熱中症対策として、小中学校全ての普通教室及び音楽教室（未設置学校）へ来年の夏までにエアコンを設置完了するため、工事発注を行った。学校施設長寿命化計画を策定し、今後の計画的整備に役立てる。</p>		7	改善し継続
課題			
<p>各学校とも老朽化が著しく、緊急性を要する修繕工事が頻発し、応急的な修繕を繰り返しているのが現状である。</p> <p>学校施設長寿命化計画を策定しており、今後の大規模改修や更新対策、一般修繕等について予防保全的改修をすすめていくことによりコスト削減を柱とした学校整備を計画的に進めていく必要があると考える。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見東小学校大規模改造工事(2期 普通教室・特別教室及び階段・廊下・職員室・保健室等改修)完了。 ・危険建築ブロック積壁の撤去修繕(口羽小・石見東小・矢上小)、門柱倒壊防止対策高さ調整・基礎(矢上小)、軒下剥離対策(瑞穂小:落下防止ネット、市木小:サイディング、日貫小:ガルバリウム鋼板) ・空調設備設計施工一括発注による一斉整備(全小中学校:エアコン設置、一部学校でキュービクル整備) ・応急措置が必要な箇所については、随時修繕を行った。 			7

事務事業名	②児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。</p> <p>防犯パトロールは、児童生徒の登下校の安全確保に効果を上げている。</p> <p>また、通学路の安全対策を実施するために、町と道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用し、危険箇所の合同点検、対策協議を行い、早期の対策が必要な危険箇所は改善対策を実施した。</p> <p>また、昨年5月に新潟県で下校中の児童が殺害される事件が発生し、これを受けて登下校時の安全確保を確実にを行うため、防犯の観点による緊急合同点検を全ての小学校で実施した。さらに、昨年6月に発生した大阪北部地震でブロック塀の倒壊により小学生が犠牲になったことを受け、通学路沿いのブロック塀の緊急点検も併せて実施した。関係機関と連携して合同点検を行い、見守りの目が届かない見守りの空白地帯などの危険箇所の把握と対策について共通理解を図り、取り組みを強化できた。</p> <p>学校保健安全法に基づき、健康診断を実施し、児童生徒の健康について、保持増進を図った。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>通学路安全推進部会において、毎年通学路の危険箇所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図っているが、未対策箇所の早期改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。また、点検を行った箇所、対策を講じた箇所のその後の点検なども必要であり、各関係者で連携をして行う必要がある。</p> <p>また、子どもが一人で歩く「1人区間」や「見守りの空白地帯」など防犯の観点による点検を実施し、重点的なパトロールが必要な箇所を確認できたが、多くの危険箇所がある。しかし、子ども安全センターの青パト隊は、各支部で10人前後の隊員がおり、パトロールに従事しているが、近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなってきた。また、青パト隊の登録者は、3年に1回講習が必要になることから原則年に1回行う講習会への参加を呼び掛けているが参加率は低い。現隊員への講習会の参加とパトロール活動の継続の呼びかけを行うとともに、広報活動等により新規隊員の加入促進を図っていく必要がある。</p> <p>児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図りたい。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
○防犯・安全教育の推進 ・各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、避難訓練などの講習(研修)会を開催した。	9
○邑南町子ども安全センター ・地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 ・7月に青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 ・青色回転灯によるパトロール(年末特別警戒活動等)を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 ・従事者数:114名 ・登録車両台数97台(内公用車1台)	9
○学校保健安全衛生対策 ・学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診等を実施した。 〔環境保健公社委託検診(心電図等)、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診〕 ・学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭等と連携してダニアレルゲン検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。	9

事務事業名	③その他	総合評価	継続、廃止等
総合点検・評価			
<p>学校事務共同実施連絡協議会では、事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、サイボウズを活用してのデータのやりとりやグループ会を未配置校で開催するなど負担の少ない方法により、事務処理を行い、学校運営に寄与することができた。</p> <p>奨学金では、新規申請について速やかに対応し適切に貸与することができた。</p> <p>教職員住宅では、必要に応じて速やかに修繕を行い、適切な住宅管理ができた。</p>		8.7	改善し継続
課題			
<p>学校事務共同実施は、年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。また、事務職員未配置校への事務支援について、計画的な訪問のほか効率的・効果的な方法を考える必要がある。</p> <p>サイボウズガールの使い方について、活用の仕方がわからないという声もあるため、研修会を開催するなどして対応するなど対策を検討する必要がある。</p> <p>邑南町奨学金返還に係る滞納者について適切に対応していかなければならない。</p> <p>教職員住宅については、今後必要な住宅戸数、地域を検討し、計画的な教職員住宅の維持・管理に努める必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況	実績評価		
○学校事務共同実施 ・学校経営に寄与するため、学校事務部門の充実、強化の推進を図った。 ・学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで事務の効率化を探った。(共同実施会6回、校長会との合同会1回、教頭会との合同会3回、東部・西部グループ会 計12回、推進委員会6回) ・共同実施だよりを作成し、学校と町教育委員会の間の事務が円滑に行われるようにした。 ・平成26年度より、11校の内、事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。そのため、西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。	9		
○邑南町奨学金貸与事業 ・高等学校等、高等専門学校、専修学校、大学校または大学等に在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。 ・平成30年度末時点貸与者3名(うち新規貸与者1名) ・平成30年度末時点償還対象者15名 ・平成30年度末時点据置期間または償還猶予対象者6名	9		
○教職員住宅 ・教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。 (羽須美地域8戸、瑞穂地域11戸、石見地域12戸) ・修繕が必要な箇所は随時修繕を行った。	8		

2. 地域を担う人材の育成(社会教育)

～学び合いによる豊かなちいきづくり～

施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	①地域学校		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
ふるさと教育に子どもと大人との学び合いとして取り組んだ。大人は子ども達に伝えるために学び、先生として伝えるという励みが生まれる。地域総がかりでの将来の隣人を育てている。		9.5	改善し継続
課 題			
子どもの体験活動というひとづくりなら、12公民館すべてが取り組んではいらぬが地域のお宝(ひと・もの・こと)に拘った活動としてはまだまだ弱い部分がある。振り返りを大事にしこの事業の目的を再認識し事業を展開する必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○研修会の開催 ・香川大学清國先生を迎え、「これまでの振り返りと地域学校のあり方を再考する」というテーマで研修・地域学校交流会を行い、出羽わんぱく学校、地域学校ハンザケ、阿須那の町内3地域の活動事例を発表、その後、全地域参加のワークショップを行った。他地域での活動を知り、活動の発展やリスクマネジメントなどの見直しのきっかけとなる研修会となった。 ・学校・家庭・地域の役割を明確にし、地域全体で子ども達を育むという意識の醸成を図るために、「おおなんフォーラム～社会教育の集い」を開催した。			10
○地域学校の開設及び実施 ・郷土愛を育むために地域資源を使った子どもたちの体験活動は地域学校として平成25年度から取り組んでいる。その活動は地域ごとに特性があるので必ずしも同じ形での取り組みではなく、12地区がそれぞれ地域の特性にあった取り組みを行った。			9
○おおなんドリーム学びのつどいの開催 ・学校教育課主管で実施した。			-

事務事業名	②家庭教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
子育て関係団体を含め社協、各地域プロジェクト等との有機的な連携のもと、地域総がかりで子育てを行うという土壌づくりを意識した取り組みとなった。 今年度の親学ファシリテーター修了者は9名であった。チラシの配布や保育所の園長会などで周知をした結果、特に小学校の保護者研修会において親学プログラムを行ってほしいという依頼があった。町民・教員の中で家庭教育への関心が高まったことが伺える。親学ファシリテーター修了者の活躍の場を提供することができた。		10	継続
課 題			
島根県が推奨する「親学プログラム」及び「親学プログラム2」の実施について、特に小中学校及び保育所・園への周知に取り組んだ結果、小学校の保護者研修会、地域の子育てを語る会などで親学プログラムのニーズが増え、保育所や小学校の職員だけでなく、地域団体の家庭教育への関心が高まった。 各小中学校の研修会、子育てイベント等の場を活用し、さらなる保護者同士の連携、強化に努めていく等周知方法の検討が必要である。また、町民に向けて行う研修に関してはPTA連合会研修会の1回にとどまったため、親学ファシリテーターのさらなる活躍の場の提供が必要である。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○家庭教育の支援 ・「親学プログラム」、「親学プログラム2」を活用し、親学ファシリテーター養成講座を5回行った。新たに9名が親学ファシリテーターの資格を取得した。養成講座、町PTA連合会研修会、市木子育てを語る会、阿須那小学校保護者研修会、高原小学校人権研修会で親学プログラムを開催した。当初の予定では養成講座・研修会の開催は6回だったが、計9回の開催となり、家庭教育に関する学習機会が増加した。養成講座、町PTA連合会研修会については昨年度と今年度の親学修了者がファシリテーターを務めた。			10
○子育て講演会の開催 親子で一緒にふれあいながら体を動かすことをテーマにした講演会を1回、子育てフェスタで「子育て」「男性の育児休暇取得」をテーマにした講演会を1回開催した。			10

○子育てに関するネットワークの構築 ・子育てに関する各種団体及び関係機関の有機的な連携を図り、それぞれの立場での価値観の基、「地域総がかり」を念頭に置いた、地域との一体感を持った取り組みを行った。その成果として、わくわくフェスタ2019の実施となった。	10
○思春期子育て講座の開催 ・「性・命・人権教育講演会」を中学生とその保護者・教職員を対象に保健課、学校と連携し実施した。性というテーマを通して、命、自分の大切さを考え、相手へ思いやりの気持ちをもつことの大切さを学んだ。	10

事務事業名		③青少年教育	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
地域素材（ひと、もの、こと）を生かした体験活動を実施してきた。 ふるさとを知り、誇りに思い、大好きな地域の将来を見据え、自身がどのように将来地域に貢献できるかというストーリー性のある取組みができた。土曜学習では親子での参加プログラムを行い、親世代を巻き込むことができた。		10	継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> 地域の思い、願いをどのように子どもたちに伝え、そして残していくのかというシステムの構築を発展させ、親世代も巻き込んで行っていけるようなプログラムの開発が求められる。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○放課後子ども教室(放課後子ども総合プラン) ・公民館、児童クラブとの連携のもと、地域ボランティアの協力を得て体験活動を中心に12回開催した。		10	
○プレーパーク事業(地域学校) ・各公民館において、地域素材を生かした体験活動を中心に、週末及び長期休業中に実施した。		10	
○土曜学習の実施 フィンランドの楽器を用いた演奏会を1回行い、フィンランド文化に触れ、興味を持ってもらうためのきっかけづくりを行った。また、鬼ごっこや昔の遊びを親子で楽しむプログラムを1回行い、親子のコミュニケーションの促進や、協調性・子どもの体力向上や大人の健康増進のための機会をつかった。		10	

事務事業名		④成人教育	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
時代背景や学習ニーズを把握しながら公民館と連携し、地域課題解決に向けた講座を設定し、成人教育として重点的に取り組むべきテーマを幅広く学習するための「町民大学」を6回開講した。毎回多くの町民参加があった。参加者の満足度も高く、地域の若者の活動や人材育成、親子のコミュニケーション、学校・地域・家庭の連携・協働に関して興味・関心を持ってもらうきっかけをつくることができた。自主防災、地域医療に関する講演会については各地域や公民館・保健課などが行ったため、町民の要望や現在の地域課題解決のための学習を精査した結果、次世代の人材育成、文化の継承、家庭教育支援、青少年育成、共生社会の実現を目指したテーマに絞った講演会を行った。		10	改善し継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> ・協働、共生社会の実現についての学習の場を提供していく。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○邑南町民大学の開催 第1講 「人生を楽しむ講演会」(参加者 80名) 第2講 「地域学校交流会」(参加者 71名) 第3講 「障がい者スポーツ体験交流会」(参加者 79名) 第4講 「神楽面の制作体験」(参加者 14名) 第5講 おおなんフォーラム～社会教育の集い(参加者 105名) 第6講 「親子体幹鍛え遊び」(参加者 62名)		10	

事務事業名	⑤ボランティア活動の機会の充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
学校支援からのボランティア育成、そして組織作りなど特にボランティアの育成及び養成について、地域コーディネーターに積極的に活動してもらい、学校支援を中心とした「応援団」の増員・設置に努めた。		9.5	改善し継続
課題			
今後は、新たなボランティア発掘を進めつつ、現在登録されているボランティアを対象に研修を行い、保育所、小中学校及び高校を核とした人材の育成及び養成に努める必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○ボランティアの活動支援 ・地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、研修機会や情報の提供を行った。			9
○人材バンクの整備(学習支援の視点から) ・公民館を拠点に活動している各種団体等からの支援、学校支援ボランティアの情報等共有し、新たなボランティアを探したところ、ボランティア登録者数が141名から220名となった。必要に応じて地域活動を支援した。 ・食育のボランティアにより、学校や公民館の活動を支援した。			10

事務事業名	⑥学習支援者の確保と育成		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
要求課題での学びから、各地域等必要課題の解決に向けた総合的な研修会等の実施により、その多様性に応えた。		9.5	改善し継続
課題			
少年団体育成指導者の研修等のさらなる参加を促すための周知が必要である。 社会教育主事研修については、様々な事情で参加できない公民館主事のために、研修に参加しやすい環境整備をしていくことが必要である。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○少年団体育成指導者の育成 ・学校支援ボランティアの研修を、町民大学(第5講 おおなんフォーラム～社会教育の集い)に併せて実施した。			9
○社会教育主事の育成 ・社会教育の指導者養成のため、公民館主事2名が社会教育主事研修を受講し、資質向上に努めた。広島大学で1ヶ月間行われるA過程は都合により参加者がなく、単位制であるB過程での受講となった。			10

事務事業名	⑦団体・グループの育成・支援		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
研修会等の充実を図った。 子ども会育成会の支援について、保険加入促進や町民大学・県子ども会連合会からの研修案内など、学習機会についての情報提供は例年どおり実施した。町内社会教育団体を一堂に集めた研修を行い、団体同士の交流を深めた。		8.5	改善し継続
課題			
地域学校の受け皿、ふるさと学習の推進団体として子ども会育成会の目的に応じた多様な活動パターンを検討し、地域での子育てに関する実働的な役割を果たすべく団体として強化する必要がある。 子ども会育成会に関しては保険加入促進と研修案内支援にとどまった。各団体の要求について調査し、各々のニーズに応じた活動・対応をしていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○社会教育関係団体等の育成支援 ・町内の社会教育関係団体を一堂に集め、団体のニーズに応じた研修会を開催し、団体同士の交流推進を図った。また、団体のニーズに応じた学習機会についての情報提供を行った。			8
○子ども会育成会の支援 ・町内の子ども会育成会と社会教育団体を一堂に集め、ニーズに応じた研修会・町民大学の開催や学習機会についての情報提供と、保険加入促進を行った。			9

事務事業名	⑧学習情報の提供		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だより等、紙媒体での情報提供は充実したものとなった。併せて、ホームページ等を活用し、電子媒体での情報提供も充実したものとなった。</p>		8	改善し 継続
課 題			
<p>町ホームページの更新に伴い、電子媒体での情報公開が整理され、さらに充実してきた。更新に関しては例年通りであったため、更新頻度を高める必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○広報・啓発活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・SNS・ケーブルテレビ等や公民館まつり等のイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ・各地域における情報が全町はもとより町外にも伝わるよう、各機関が連携した情報提供に努めた。 			8
<p>○情報提供資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設に充実した情報提供資料を備えた。 			8

施策2 2020東京パラリンピック合宿招致

～ユニバーサルな意識を確実に後世に残すために～

事務事業名	①東京パラリンピック合宿招致		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>フィンランド共和国ゴールボールチームの邑南町視察を実施し、ゴールボール選手との交流を通して、ユニバーサルな意識の醸成とスポーツへの関心を高めることができた。また、外国人の方々を実際に迎え入れたことにより、邑南町文化を世界に向けて発信することができ、外国人向けの環境整備の必要性について確認することができた。今年度もフィンランド共和国への交流派遣事業を実施することで地域社会やグローバルな課題に自ら考え行動できるような活動の支援等を行った。</p>		9.2	改善し継続
課 題			
<p>ユニバーサルの意識の醸成を高めていくために、障がい・障がい者理解教育についての取り組みを今以上に行う必要がある。また、「将来の隣人」である子どもたちにふるさとへの愛着・誇りを持つように交流派遣事業を継続して実施する。またフィンランド共和国ゴールボールチームの受入や外国人の受け入れに向けて町民全体で取り組めるように努めていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ユニバーサルの推進 ・誰もが幸せと感じるまちづくりの推進として、フィンランド共和国ゴールボールチームの視察を通して、ユニバーサルな意識の醸成を高めることができた。目標としていた障がい理解、障がい者理解についての講演会ではなく、ユニバーサルな意識をより多くの方に感じてもらうため、学校や施設等に出向きゴールボールやパラリンピック競技、フィンランドを通してユニバーサルな意識について考える取り組みを15回実施した。大人だけでなく町内の児童・生徒に対しても、誰もが幸せを感じるまちづくりの意識の醸成を図った。</p>		9	
<p>○スポーツの推進 オリンピック・パラリンピックフラッグツアーを東京2020オリパラ組織委員会の主導で邑南町にて実施した。オリンピックに出場したトップアスリートを招聘し実技体験による交流を行った。また、過去にオリンピックに出場した選手2名を邑南町スポーツアドバイザーとして委嘱し、講演会を2回実施した。またゴールボールの出前講座を小学校を中心に5回実施した。フィンランド共和国ゴールボールチームの視察によりパラリンピックへの機運の醸成、交流や体験会を通してスポーツの推進を行った。</p>		9	
<p>○カルチャーの充実 ・ふるさとへの愛着を図るための教室は実施できなかったが、フィンランド共和国への派遣事業の際、邑南町紹介動画の作成を行った。これによりハンザケや食、自然といった邑南町の文化を改めて再認識する機会を図ることができた。世界の文化を学ぶことを目的としたフィンランドの出前講座を7回実施した。また、フィンランド共和国から音楽家を招聘してのコンサートやフィンランド共和国ゴールボールチームの視察により、フィンランド共和国の文化を知ることができ、来町された方々により邑南町の文化を世界に向けて発信することができた。</p>		9	
<p>○ヒューマン ・町内の中学校、高校、特別支援学校に通う生徒に対し、日本だけでなく、世界に目を向けるグローバルな意識を養うためにフィンランド共和国への派遣事業を実施した。また、派遣事業の報告会を行った。今後もグローバルな意識を養うためにフィンランド共和国への派遣事業を実施する。派遣事業だけでなく国際交流員を活用した出前講座により日本とは異なるフィンランド共和国の文化を知る取り組みを行った。</p>		10	
<p>○インバウンド ・合宿誘致を成功させた他自治体の話や今年度のフィンランド共和国ゴールボールチームの受入れにより、邑南町版のおもてなしや外国人観光客に必要な案内表示や環境整備に向けた必要事項について再確認することができた。</p>		9	

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

～魅力ある地域を支えるリーダーの育成～

事務事業名	①公民館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>1 2 公民館ごとに教育方針や教育施策や実施計画をまとめたものを活動推進委員協議会で承認してもらい、公民館職員だけが公民館を担うのではなくその地区の住民の皆さんで公民館を運営していただけるように活動を見える化して年間活動してきた。また、邑南町公民館あり方検討委員会と邑南町社会教育委員の会が、一緒に作りあげた「邑南町の未来を創造する公民館のあり方の指針」は今後の公民館の方向性として大きな成果となった。</p>		9.3	改善し継続
課題			
<p>どこの公民館も公民館活動への参加者や協力者が固定化されてきつつある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○公民館活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の住民の要求と課題を把握し、活動推進協議会を公民館単位で年間2回以上開催し、活動計画の策定を行い、各種学級・講座等の学習活動の推進に努めた。また、公民館活動推進委員の合同研修会を年間2回開催し各公民館5人以上の推進委員が参加している。（地域学校交流会、社会教育フォーラム） ・行財政改善計画に応じて邑南町の公民館のあり方「邑南の未来を創造する公民館」を作成し、今後1 2の公民館が進むべき方向性を共有した。 			10
<p>○地域づくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区別戦略と連携し事業を進めた。また、地区別戦略の活動について毎月の公民館たよりで情報を発信した。 			9
<p>○生涯学習情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館行事や様々な情報をケーブルテレビ、公民館だより等で定期的に情報提供を行った。公民館だよりを毎月発行し、各館と元気館ロビーに公民館紹介コーナーを設け、紹介した。 ・町民大学や講演会等の内容に合う図書の展示に努め年間を通じて作品の展示に努めた。 			9

事務事業名	②健康・福祉に関する学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>保健課や福祉課と連携してウォーキングをしたり、地区別戦略事業と連携してノルディックウォーキングに取り組み健康づくりや維持増進のための教室等の運営に協力した。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>継続していけるようにサークルや教室を支援する。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○健康増進事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりを目的に保健課と連携して、公民館単位で毎月ウォーキングを開催した。地域の魅力再発見をテーマに地域のお宝をめぐるコースを設定し、健康づくりと地域学習のきっかけになった。 ・石見地域公民館共催で9月に健康づくり講演会を開催した。 			9

事務事業名	③多様な分野の学習の場の提供		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
様々な時代や地域課題に応じて学習会を開催し公民館の事業展開を図った。		8.8	改善し継続
課 題			
単発の事業で終わらずすべての公民館事業にはストーリー性をもつこと。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○男女共同参画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・石見一步の会やスキップの会と連携して、特に情報の共有、研修への参加を促す。 ・石見一步の会と男女共同参画川柳の展示を行ったり、しまね女性センターの研修会へ参加した。高校生を対象にした料理教室を開催し男女共同参画カルタを行った。 		7	
○平和教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習会として被爆体験証言者河野頼人氏による講話を聴いた。同じ内容で2日実施し、保健師より熱中症対策について学習した。 ・歩こう広島からは、酷暑の為歩くことを中止し平和公園内の見学のみ実施した。 ・平和学習として広島平和記念資料館から借りた資料（パネル）をロビーにて展示し、来館者に戦争や原爆の恐ろしさや平和について改めて考えてもらうきっかけづくりを行った。 		10	
○人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各公民館単位でその地域にあった課題に応じた学習会を1回以上は開催した。 ・視覚障がいの方の講演を「ハーモニカの演奏会」と題し実施し、視覚障がいについての理解を深めたり、アイヌの歴史と文化を学んだ。 ・瑞穂中学校PTAと共催でセクシャルマイノリティの方の講演会を実施し、他者理解を深めた。 ・障がい者理解及び障がい者スポーツの学習会を行った。 ・公民館主事も段階に応じて全員が基礎講座や専門講座や中核指導者講座を学び資格を取得した。 ・学社連携啓発プログラムの活用は学校の教員との打ち合わせ時間が十分取れなかったので2館しか取り組むことが出来なかった。 		10	
○環境教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・登山をしながら自然観察会を複数館合同で開催した。 ・山や川をテーマに小学校と連携し環境学習を行った。中にはハンザケ自然館と連携してハンザケの生息についても一緒に学んだ館もある。 		9	
○高齢者学級の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・運動教室や認知症予防教室や寄り合い処の要望を受けて学習支援や情報提供を行った。 		9	
○成人学級の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・田植え雛子の普及を行っており、田植え雛子奉納や公民館まつりにおいて田植え雛子を披露した。女性セミナーを毎月1回開催し、女性の出かける機会や学ぶ機会を設定した。 ・井原つながるプロジェクトと連携し、井原を知る勉強会を開催した。個々の能力開発が推進されるよう、成人学級を開催しその成果を公民館まつりで発表した。 ・昨年度立ち上げた「ゆるりの会」の要望を受けて学習支援や情報提供を行った。また、ふるさとの味研究会の後継者として活動を繋げた。 		8	
○現代的課題講座 <ul style="list-style-type: none"> ・地区別戦略プランに関する学習会を行った。 ・「多様な性を生きる」の人権講演会を開催した。 ・自治会・地区社協・公民館3者連携で、出羽の課題である「みんなで支え合う地域をつくる」為に何をすればいいか考える学習会を行った。 		9	

<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と公民館が連携して情報を共有し、ふるさと教育をより推進するために年間2回教頭・主事会を開催し意見交換を行った。 ・田所地域学校「ハンザケ」（5回）・ふるさと学びあい講座（2回）・ふるさと探検隊（2回）実施した。 ・井原地区の名所めぐり「夏休みこどもウォーキングin井原」の実施 ・出羽わんぱく学校（10回）・ふるさと学びあい講座（2回）・ふるさと探検隊（2回）実施した。 ・地域学校として農業体験や季節に応じた体験活動を行った。 	10
<p>○地域力醸成プログラム推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のお宝を語り継ぐふるさと学芸員をふるさと教育の講師としてお願いした。 ・高齢者の地域行事への積極的な参加を促すため、高齢者の知恵や知識・技術などを用いたビッグひな祭り文化展を開催した。 ・お宝マップの作成は各地区から選出された推進委員と協議し修正を図った。平成31年度には完成し、有効活用を目指したい。 	7
<p>○高校生を対象とした講座の開催</p> <p>春から社会に巣立つ18歳の生徒たちに、新しい世界へ羽ばたくための講座を開催。今年のテーマは①一人暮らしの食と栄養②社会におけるリスクマネジメント③災害での危機管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢上高校チャレンジ体験を行い高校生も講師役として参加した。 ・矢上ふるさと祭り（公民館祭り）では文化展、演芸展で発表の場を設けた。 	9
<p>○館々交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見地域小学校交流事業→井原公民館でけん玉教室（継続事業） ・出羽・布施・高原・出羽と共催で自然観察会を実施。・石見地域公民館合同「健康づくり講演会」を開催した。 	9

事務事業名	④学習成果発表の場の充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>公民館まつりでは多くの公民館が矢上高等学校や中学校の吹奏楽部に声掛けし公民館活動に協力してもらった。高校生や中学生が公民館を知るいいきっかけとなった。年に一度の公民館研究交流集会は見直しを図り、公民館だけの研究交流集会ではなくそれを取り巻く社会教育関係団体も一緒になって「町民が主役！町民と行政との協働のまちづくり」について子どもを真ん中に据えた地域づくりの実践話を聞き邑南町でできることを学習した。</p>		9.7	改善し継続
課題			
公民館まつりにおいて中学生や高校生のスタッフとしての関わりをもつこと。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○公民館まつり・文化展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、公民館まつり・文化展を開催した。 日和公民館では地区別戦略事業の「騒祭」の舞台発表において公民館のサークル活動の発表を行った。 			10
<p>○教室・サークルの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民の要望にあった教室・サークルを紹介し支援した。 公民館だより等で教室のPR、サークル紹介を行った。 小学生を対象とした英語サークルの立ち上げ支援をし、自立に至った。 			9
<p>○公民館研究交流集会の開催</p> <p>昨年まで公民館の関係者のみの研究交流集会であったが、今年度から公民館を核とし、社会教育委員や婦人会及びPTAなどの社会教育関係団体の成果発表、研究交流集会とした。社会教育の推進を目指す人々の思いを一つにした。公民館の事例発表とえひめ子どもチャレンジ支援機構仙波英徳氏を講師に講演及びワークショップを行い、「公民館と住民の協働のまちづくり」について今後の方向性を学んだ。（参加者105名）</p>			10

事務事業名	⑤相談窓口		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>邑南町公民館連絡協議会の活動は多くの公民館が関わるので単館で行う事業により幅広く対応できた。より多くの地域課題の解決の学びとなった。</p> <p>邑智郡公民館連絡協議会は会を重ねる度に実りある研修会となっており会員同士の交流が深まっている。3町で行う意義を研修会で見出すことができた。</p>		9	改善し継続
課題			
相談内容が多岐に分かれているので様々な知識や情報の習得が必要とされる。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○相談窓口の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。 各種情報提供や相談に応じた。 			9
<p>○広域での連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に1回邑智郡公民館連絡協議会で3町合同の研究集会を行った。他町村の公民館主事と交流し情報交換した。3町の事例発表と「公民館運営について」参加型ワークショップを行い、情報を共有し連携を図った。（参加者51名） 			9

施策4 図書館教育の充実

事務事業名	①図書館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>「第2次邑南町子ども読書活動推進計画」に基づき、関連機関と連携を図り、読書普及事業を展開。親子読書はさらなる普及を目指し協力をお願いした。読書ボランティアの研修会を実施した。新規購入は利用者からのリクエストや現代のニーズに合わせて蔵書構成を考えながら行っている。また、相互貸借、特別貸出を活用し利用者の要望に応えることができた。郷土資料等の登録作業は継続しておこなう必要がある。</p>		9.8	改善し 継続
課 題			
<p>子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書のあり方について、さらに力をいれて普及させる必要がある。継続して郷土資料の収集、登録、保存に力を入れ、住民への資料提供が迅速にできるようにする。成人の来館者が増加しており、利用者の求める資料の把握に努める。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○新規図書の購入 ・蔵書構成、利用者のニーズを考慮し資料の充実に努めた。学校図書館の調べ学習に対応できる資料の収集。新規購入 児童書 740冊、一般書 654冊</p>			10
<p>○県立図書館特別貸出の活用 ・石見地区、羽須美地区は公民館に県立図書館の図書を設置し住民の読書に供している。 ・借受冊数 3,000冊 ・相互貸借（他の図書館より資料の借受）737件</p>			10
<p>○読書普及活動の推進 ・子どもが自らの課題を見つけ、考え、解決する力を養うため、学校司書と連携し、「邑南町おすすめ本」のリストを児童生徒に活用してもらうよう新入生に配布した。 ・感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、中学校からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。 ・邑南町子ども読書推進会議を2回開催し、「第2次邑南町子ども読書活動推進計画」の進捗状況を確認し、第3次の策定に向け協力をお願いした。 ・公民館と連携し、講演会等に関連書籍を展示し、成人への読書啓発を行った。（5回） ・個人貸出 41,194冊（目標値37,000冊）は目標値に達した。団体 7,135冊（目標値10,000冊）は学校図書館の資料が充実してきていることからの減少と考える。 ・ブックスタート 0歳児 60人、1歳6カ月児 61人、3歳児 76人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。 ・子どもたちへ読書の関心を高めるために、三館めぐり、ぬいぐるみのお泊り会（1回）夜のおはなし会を実施した。また、毎月の展示に工夫をこらした。読書ボランティアの協力により、あそびのつどい（2回）、大人のためのお話会（2回）、おはなし会（12回）を開催した。 ・読書ボランティア研修（1回）開催。また、しまね子ども読書等推進の会とタイアップして写真絵本作家の講演を開催し知識を深めた。 ・職員研修はローテーションの問題があり開催はできなかったが、自主的に研修会に参加した。</p>			9
<p>○20歳のブックスタート事業 ・推薦図書の選定及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。対象者数84名</p>			10

施策5 社会体育の充実

～生涯にわたるスポーツの実践と夢、感動を与えることのできる人づくり～

事務事業名	①生涯スポーツ活動		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>東京パラリンピック合宿招致活動がもたらす5つのレガシーの一つである「スポーツ振興」の取組みとして、障がい者スポーツの理解や交流に取り組んだ。体育協会やスポーツ推進委員会を中心とした講演会も開催し、障がい者スポーツに限らず障がいについての学び直しをした。地域のスポーツ推進団体が中心となって心身の健康づくりやスポーツの普及に寄与した。</p>		10	継続
課題			
<p>誰もが楽しめるスポーツ振興を社会体育推進団体と協働して進め、地域のリーダーを育成する。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○スポーツの普及拡大 ・スポーツ推進委員が県内の研修や中国地区の研修で学んだことを地域内の子どもや高齢者に伝えスポーツの普及拡大に努めたスポーツ推進委員が同じ目的に向かって進んでいることが形として現われ、推進委員の連携が組織強化に繋がっている。障害者スポーツ協会と共催で障害者スポーツ体験会を行った。</p>		10	
<p>○生涯スポーツの支援 ・体育協会、スポーツ推進委員及び既存のスポーツ団体と連携をし、各種大会や交流会を実施し、町民の交流、一体感の醸成に努めた。 ・各団体と協力し、それぞれの団体の運営を尊重し大会、交流会を実施した。 ・関係団体主催の行事に積極的に参加協力（邑南町バレーボール大会、親善ソフトバレー大会、邑南町長杯野球大会、邑南町長杯ファミリーバドミントン大会など）を行った。 ・体育協会の支部長会を四半期に一回行い、各支部の情報共有やイベントについて共有化を図った。</p>			
<p>○スポーツにふれあう機会の提供 ・出前講座等で軽スポーツの紹介及び啓発を行った。 （出前講座 3回 参加者数 94名） ・他の課と連携して健康サポートリーダーを育成し、軽スポーツを広めた。（年1回）</p>		10	
<p>○スポーツ教室の開催 ・NECバレー教室は事前に各教室で何を学びたいか目的を明確にしたので参加者や保護者にも評価が高く内容が充実していた。また、教室終了後も体育協会や学校、指導者と振り返りをきちんとし、事業の検証を実施した。そこから出てきた課題解決のための動きを意識した事業展開ができた。（教室参加者93名） NECレッドロケットの合宿では、大野石油広島オイラーズとの練習試合を行い、10周年記念としていこいの村しまねで交流会を行った。（交流会参加者75名）</p>		10	

施策6 学び合いによる豊かな地域づくり

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名		①出前講座		
総合点検・評価			総合評価	継続、廃止等
各課で事前にメニューの見直しを行い、既存のメニューのうち6個を削除し、新規を9個増やした。全85個のメニューにより受講申込団体の希望に沿った講座が開設できた。			9	改善し継続
課題				
今後も学習機会を広げるとともに、実施後のアンケートを参考にしながら地域課題の解決の一助となるようメニューを充実させていきたい。				
主な事業内容と実施状況				実績評価
○出前講座の充実 ・町民憲章の達成に向け、町職員等が地域に出向いて講座を実施し、117講座2,858人の参加を得た。				9

事務事業名		②住民自治による地域づくりの推進		
総合点検・評価			総合評価	継続、廃止等
地方創生に関して、地区別戦略の基礎となるものとして募集したものの、今年度は新規、継続ともに申請は無かった。			-	継続
課題				
地区別戦略が今年度で最終となるため、そのことを含め今後も延長が必要であるか検討が必要となる。				
主な事業内容と実施状況				実績評価
○夢づくりプラン策定の支援 ・今年度新規の申請はなかったものの、この事業が結果的には地区別戦略のベースとなり、住民の地域づくりへの気運の高まりとなっている。				-
○夢づくりプラン推進のための支援 ・対象となる地域が無く、今年度は実施していない。				

事務事業名		③食育の推進	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
実務者同士の情報共有や食育への積極的な取り組みを進めるため、食育推進体制を見直した。食育推進協議会を解散し、食育推進会議、食育ネットワーク会議、庁内連絡会とすることを、協議会で承認してもらった。		9	改善し継続
課題			
関係機関の情報の共有の場を設け、実務者同士の連携をより深めていきたい。実際に活動できる食のボランティアが固定化しているため、新たなボランティアの発掘を行いたい。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○食育の推進 ・食育ネットワーク会議、庁内連絡会は、新体制となって初めてのため合同で開催した。各団体のH30年度の取り組みの報告とH31年度の予定について話し合った。 ・「食育ボランティア」という食に特化したボランティアの人材バンクにより、学校や公民館活動を支援した。 ・毎月19日の「食育の日」について、広報や公民館だよりを活用して町民へ周知を図った。			9

事務事業名		④健康センターの活用	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
平成30年度健康センター元気館の利用者数は38,737人と前年度と比較して25%増減となった。これは、NHKの公開録音、県保育研究会などの大規模なイベントが行われなかったことによる。		8	改善し継続
課題			
パラリンピックキャンプ地招致が決定した。施設の充実等を図る必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○健康センターの活用推進 ・NECレッドロケッツ合宿誘致、パラリンピックキャンプ地誘致に向けてパラリンピック競技体験会、映画「なぜ生きる」の上映会があった。			8

施策7 学校と地域が連携(一体)した取り組み

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
学社連携により作成したプログラム教材を活用して研修会など開催することができた。		8	改善し継続
課 題			
プログラム教材を使っの啓発を各館で行ってもらよう要請、支援していく。プログラム教材にこだわらず連携して啓発に取り組めるよう支援していく。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○人権・同和教育研修 学校人権・同和教育の学習プログラム教材を学校と公民館とで共同で作成したものを地域への啓発に向けて公民館主事及び同和教育主任に説明及び啓発をお願いし、2公民館で実施された。			8

事務事業名	②ふるさと学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
学習機会や発表する場を設け、子どもたちがふるさとについて学び、見つめなおす機会となった。平成28年度・29年度に実施したみんなの町づくりプロジェクト事業の予算を活用し、学校と地域が協働で子どもたちを育むふるさと教育の展開例を示したリーフレットを作成し、ふるさと教育担当者会で配付した。		8	改善し継続
課 題			
持続可能な社会の創り手を育てるためにも、子どもにつけさせる資質・能力を学校と地域で共有しながら子どもの教育にあたる必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○ふるさと教育担当者会 ・ふるさと教育担当者会を3地域で開き、ふるさと教育の進め方についての話し合いを行った。(各地域1回) ・各校で児童生徒が地域の方たちと共に学び、実践したことを「おおなんドリーム学びのつどい」で発表した。			8

事務事業名		③食育の推進	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校給食の提供と地産地消の推進は継続して取り組んだ。 「食育」の推進として、地産地消を取り入れた安心安全な学校給食の提供に取り組んだ。</p>		9.3	改善し継続
課題			
<p>地産地消の推進活動では材料費が高騰する状況の中、コーディネーターが積極的に活動しているが、地産地消率が前年度比14.3%減であった。地元食材を安定的に供給し、継続した学校給食事業の提供と食育の推進を図っていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校給食センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か所の学校給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 ・安全安心な給食の提供に引き続き努め、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。 ・合併以降据え置いていた学校給食費について、近年の食材費の高騰などにより、平成31年度以降の給食費の見直しを検討し、平成31年4月からの値上げを決定した。 			9
<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き給食センターに生産者と調理場をつなぐ地産地消コーディネーターを配置し、地元食材の調達などの業務を専門的に取り組んだ。生産者との連携により業務に積極的に取り組まれたが、地産地消率は前年度と比較して減少となった。地産地消の推進として、食材費の一部(地元野菜)及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。 ・今年度も地元食材を東・西両センターで積極的に活用するよう地産地消コーディネーターを中心に栄養教諭、調理師と共に取り組んだ。 			9
<p>○一校一菜プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食することで、生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、11校で取り組み、実施することができた。 			10

事務事業名		④読書の普及	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校司書との連携により、邑南町おすすめの本リストを活用し子どもたちの読書の質をより高めることができた。また、調べ学習に適した資料の収集と相互貸借により学校図書館へのバックアップが充実してきている。 図書館での各種行事や学校での読書普及活動に読書ボランティアの協力を得て開催することができた。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>資料の見直しを行い、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める。おすすめの本(中学生)は時代に応じた選書を行い修正していく必要がある。 読書ボランティアの研修会を開催し資質の向上に努め、ネットワークづくりを推進する。新たな読書ボランティアの育成に努める。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○読書の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書ボランティアの協力を得ながら、読み語り、ブックトーク、ストーリーテリングなどの活動を通して読書の普及を図った。 ・学校での調べ学習等のレファレンスに対応し、資料の収集を行った。 ・中学生の読み聞かせ研修を読書ボランティアの協力で継続できている。 			9
<p>○読書ボランティアの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会を開催し(1回)読書ボランティア資質の向上を図った。 ・町内の約120名の読書ボランティアの方に小・中学校で朝の読み語り等に関わってもらった他、図書館での行事等に参加、協力してもらった。 			9

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

～郷土の文化や文化財を大切にし、

愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	①関係施設の整備・充実と有効活用		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>ふるさと教育推進の拠点としての、文化財関係各施設の機能は維持できており、町内小学校の授業の一環として施設利用があるなど、一定の役割を果たした他方、貴重な文化財を紹介する案内看板等の老朽化が顕在し始め、今後修繕等を計画的に実施していく必要がある。</p> <p>各施設の情報提供について、施設の活動状況とリンクした情報提供ができた部分もあるが、しまねミュージアム協議会を通じた類似館との連携を図ることで、より一層「伝える」「活用する」「体験する」取組を図っていききたい。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>郷土館、ハンザケ自然館について、町内の小中学校すべてに授業等で利用していただけるよう展示物や企画展、イベント等両館が持つ情報を各校と共有できる体制づくりをしていく必要があるとともに、地域素材を用いた学習プログラムの開発をすることで、より一層町内の児童・生徒に対する愛郷心の醸成を図っていききたい。また、町内にある文化財の有効活用のため、文化財の包括的把握に努める必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○郷土館の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土館の収蔵品の整理は随時行った。 展示品の入れ替えを行うなど、展示の充実を図った。 来館された方への対応を随時行った。（来館者数：885人） 郷土館活動推進協議会を1回開催した。目標には達しなかったが、郷土館の活動に対して委員の合意が得られ、企画展の準備体制等の構築も十分図られた。 企画展を1回開催した。 		9	
<p>○自然館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然観察会を2回行った。 自然環境に関する講師として講座等を4回行った。 特別天然記念物オオサンショウウオの保護及び調査を11回行った。 希少動植物及び湿地等の保護や調査を5回行った。 ナイトミュージアムを1回開催した。夏休み期間中の3日間で約70名の参加者があり、普段見られない夜間のオオサンショウウオの生態について学習することができた。 オオサンショウウオの人工繁殖を含む研究について、取り組みを行った。 		9	

事務事業名	②ふるさとの歴史・文化に関する調査・学習支援		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>久喜銀山遺跡に関する講座や旧山崎家住宅の屋根葺替体験、見学会を実施し、町民が直接文化財に触れる機会を提供できた。特に旧崎家住宅の屋根葺替体験は、町内の全小学校に呼びかけを行った。二十年に一回程度実施と滅多にない機会に、参加者にとって貴重な体験となったと思う。</p>		8.7	改善し継続
課題			
<ul style="list-style-type: none"> 特に町内に所在する伝統芸能について、石見神楽については郷土館で企画展を実施し、また日本遺産に申請するなど、保存継承に向けた取り組みをすることができた。他の伝統芸能についても、保存継承が図られるよう引き続き取り組みを行っていききたい。 文化財の保護意識の醸成に対するきっかけづくりのみならず、活用することに対する意識の醸成も図っていききたい。 			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○文化財の保護・保存・調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会を2回行った。 ・久喜銀山遺跡調査事業について、文化庁調査官を招へいし、国指定意見具申に向けた調査指導を受けた。 ・久喜製錬所跡煙道の保存に向けた方針策定について、調査指導委員会で議論し、保存の方針について継続協議することとなった。 ・久喜・大林銀山遺跡調査指導委員会を1回行った。国指定意見具申に向け、遺跡の価値付けや今後の方針について十分議論し、意見具申に向けた委員間の共通認識を持つことができた。 ・各種開発協議に伴う埋蔵文化財協議を14件行った。 ・旧山崎家住宅茅葺屋根葺き替え工事について、2期目の工事が完了した。 	9
<p>○文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」等で11回対応した。受講者は累計141名だった。 ・平成30年度邑南町役場新規採用職員研修で、久喜銀山遺跡の調査成果等について発表した。新規採用職員の中には町外出身者も多く、邑南町内にある貴重な文化財についてしっかりと学習してもらうことができた。 ・郷土誌学習支援について、郷土の歴史についての学習会を1回開催した。 	8
<p>○伝統芸能の保存伝承の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事「次の日祭（傘鉦）」に参加する羽須美中学校生徒に対して事前学習会を行った。生徒は傘鉦の制作を行い、その傘鉦で「次の日祭」に参加し、地域の伝統文化に触れることで、後継者育成の一助となった。 ・町内伝統芸能の保存継承支援について、郷土館で神楽にまつわる特別展を開催し、合わせて神楽面づくりのワークショップを2回開催した。特にワークショップは参加者の大半が子どもであり、神楽という伝統文化にふれることで保存伝承に対する一助となった。 	9

事務事業名	③芸術・文化に関する学習支援		
	総合評価	継続、廃止等	
<p>「邑南の自然・景観写真展」を開催したところ、町外からの応募者が増加した。町内の方のみならず、町外の方も邑南町の持つ豊かな自然環境に触れることができた。</p>	7	改善し継続	
<p>課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南の自然・景観写真展について、邑南町の自然の大切さを啓発する観点で、今まで作品を応募された方ばかりでなく、新たな応募者を募る取り組みが必要となってくる。 			
主な事業内容と実施状況	実績評価		
<p>○芸術・文化活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然館において、「邑南の自然・景観写真展」を1回開催し、1,317名の参加者があった。来館者に、邑南町の持つ豊かな自然や邑南町特有の景観について知ってもらうことができた。 ・平成29年度の応募者が22名に対し、平成30年度の応募者は27名と増加した。また、新規の応募者は14名であった。 	7		

4. 人権教育・啓発の推進

施策1 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	①人権・同和教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>町全体としての取り組みは、実施目標回数等達成することができた。また、平成26年度から取り組んでいる各種団体の啓発推進者への講座も開催できた。学社連携啓発プログラム教材を利用した啓発が取り組まれた。</p> <p>開催した研修会のアンケート結果では、行動へと向かう前向きな感想が増えてきている様子が見えてくる。また、本年度から邑南町人権啓発研修推進員制度開始。</p>		8.6	改善し継続
課 題			
<p>講演会への参加者の固定化を解消していくため、内容や告知の方法を検討していく。また、作成した学社連携啓発プログラム教材の活用を公民館主事会等で引き続きお願いしていくことで、小グループ、保護者会等への啓発で固定化解消へとつなげて行く必要がある。</p> <p>また、各種団体の啓発推進者対象の講座を継続して開催していくことで研修参加者が新たな研修参加者へとつながる取組が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○職員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員研修を7月、10月、11月に実施し、また、県・各種団体の実施する各種研修会（34回 479名）にも参加した。今後も継続して、職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携を強めて参加してもらうよう働きかける。 島根県職員の制度を参考に人権啓発研修推進員制度を本年度から取り入れ、職員の意識啓発につながるよう部署ごとの人権研修を進めることとし取組んだ。（19回/16グループ 146名） 独自研修を行った際には、受講者アンケートを実施しており、アンケート結果を次回の研修につなげるよう活用していく。 		9	
<p>○各種団体への啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 邑南町人権啓発推進講座を継続して開催することにより町及び公民館の主催する研修会・学習会へ参加が増加したようが見えてくる。 邑南町人権啓発推進講座へ各種団体から参加があった。16団体＋役場（推進員含む）＋公民館 38名 また、本年度から進出企業会へも案内し参加されている。 		8	
<p>○邑南町人権・同和教育推進協議会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 年3回の研修会を開催した。また県の主催する研修会や各種研修会へ参加した。 参加者の固定化がみられるものの研修会のアンケートでは、行動へと向かう前向きな感想が増えてきている様子が見えてくる。 		9	
<p>○進路保障学社連絡協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校区ごとに学期に1回以上開催した。県立学校、SSW、浜田教育事務所の参加も得ながら人権・同和教育の推進状況や支援の必要な児童生徒についての取組内容を検証するなど情報交換することができた。 今後も引き続き人権・同和教育の推進や進路保障に対する理解と、取組みが各校に徹底されるよう開催していく。 		9	
<p>○公民館人権教育プログラム教材の作成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム教材での研修会を2公民館開催した。また、研修会も12の公民館全てにおいて開催し複数回開催の公民館が増えてきている。12館（公連協開催含む）で計22回開催、726名の参加。 		8	

資料：教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

【総合評価】 主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】 「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】 「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階評価することとする。

■実績評価の点数について

*業務（事務）目標がどの程度達成されたか

評点	達成度合	数値化可能な場合の基準*1	数値化できない場合の総合判断の基準
10	目標どおり以上の成果を達成	達成水準どおり（100%以上）の成果を挙げた	期待どおり以上の成果を挙げた
9	ほぼ目標に近い成果を達成	達成水準に対して90%以上の成果を挙げた	ほぼ期待どおりの成果を挙げた
8		達成水準に対して80%以上の成果を挙げた	今一步、期待どおりの成果に至らなかった
7	目標を未達成	〃 70% 〃	期待どおりの成果には、至らなかった
6		〃 60% 〃	
5		〃 50% 〃	
4		〃 40% 〃	
3		〃 30% 〃	
2		目標を著しく未達成	
1		達成水準に対して10%以下	

*1 数値化可能な場合の基準

①目標達成度：次の4つを勘案し、関連するものの数値の平均を求める。

ア（回数実施率） 実施数／目標数 イ（定員充足数） 実人数／目標数 ウ（予算執行率） 実施額／予算額
エ（費用対効果） 事業費／講座参加者数 ~ただし、主観的な判断となる。

②主要成果：アンケート結果の声から数値化 ①及び②で該当があれば、個々に点数化し平均点を事業内容ごとに点数化。①②のどちらにもない場合は総合判断とする。